

令和 4 年度

第 2 期基山町まち・ひと・しごと  
創生総合戦略 実績報告書

【 事業個票 】

1. プロジェクトの概要(Plan)

プロジェクト	プロジェクト番号	プロジェクト名
	1	トカイナカ産業振興プロジェクト
担当課(担当係)	産業振興課(新事業支援係、商工観光係、農地係)	
総合戦略の6つの柱	基本目標	
	①基山町への新しい「しごと」の流れをつくる	
プロジェクトの概要	想定する事業	
	① 六次産業化推進事業 (産業振興課) ② 特産品等販路拡大事業 (産業振興課) ③ 農山村活性化事業 (産業振興課) ④ 地域連携農業促進事業 (産業振興課) ⑤ まちなか資源活用事業 (産業振興課) ⑥ きやまブランド化推進事業 (産業振興課)	
	施策の概要 ① 新たな六次産品の開発を推進するため、大学等学術研究機関と連携を図り、成分分析や市場調査を的確に実施し、事業者自らの商品開発を支援します。 ② 基山町産業振興協議会に産業活性化の事業を集約しながら、参画事業者数の拡大によって、町一体となった取り組みを推進し、規模効果と相乗効果の拡大を図り、ふるさと名物市場等を活用し、特産品や新商品の販路拡大に取り組みます。 ③ 農業振興策と連動し、認定農業者や中心経営体へ農地の利用集積を図り、規模拡大と農産品目の付加価値の創出により、持続的な農山村の活性化に取り組みます。 ④ 農業の新たな担い手とあらゆる分野で活躍する方々が、相互に協力し合い連携する取組を支援し、地域の活性化、魅力向上を図ります。 ⑤ 商店街の魅力ある空間形成について、有識者等の意見等を踏まえ検討するとともに、商店街の空間、空き店舗・空き事務所等を「まちなか資源」と捉え、商店街を商店の飲食・物販提供の場に、多様な団体等の発表や表現・交流の場としての視点を加え、来訪者の増加を図ることによって商店街振興を図ります。 ⑥ 地元中小企業の商品開発力やブランド力の向上や、特産品開発を支援するなど、基山ブランドの拡大と定着を図ると共に、基山町産業振興協議会を中心に関係機関と連携し、様々な角度から基山ブランドの情報発信に努めます。	

2. プロジェクトの実績(Do)

令和4年度に実施した取組内容
<p>① 事業者の新メニュー開発と販路拡大促進のため、産業振興補助金を交付して「きやまKappo」を開催し、その中でエミュー料理のコンテストを実施することで、新たな可能性の追求や販路拡大とブランドイメージの向上を図った。</p> <p>② コロナ禍で注目された通信販売の強化を目指して、産業振興協議会「きやま通販」での販路を拡大するため、基山町通販HPの新規登録者の増加と新規商品登録の増加を行い、併せて通販サイトにてふるさと納税と連携することで販売金額増加につなげた。また、これから通販を始めることを検討している事業者等に通販への知識を高めるための勉強会を行った。リアル店舗「ふるさと名物市場」での町外への情報発信拠点を活かして、町の特産品の販売を通じて販路拡大の支援を行った。また、「ふるさと名物市場」は新たな仕器等を入れリニューアルオープンを行った。</p> <p>③ 産業の振興に寄与する団体等に対する補助金を活用し有機農業に取り組む認定農業者や、堆肥利活用スイッチ補助金を活用し農業法人設立を目指す中心経営体に農地を集積し、規模の拡大を行った。</p> <p>④ 農業の新たな担い手が、基山町で農業を始められるように、又は規模拡大ができるように農地所有者とのマッチングや地域農業者及び関係機関への橋渡しなどを行った。また、町内の新たな農業者グループに対し、佐賀県の補助金を活用して先進的な取組を行っている方たちへの視察を行い、農産物加工による新たな商品開発に向けた試作品製作や新規作物導入試験栽培などの取組を支援した。</p> <p>⑤ 「商店街にぎわいづくり事業」を基山町商工会に委託して実施し、「ゆかいなまつり」「ハロウィンパーティー」「じゃんけんスタンプラリー」の3つのにぎわいづくり事業を実施することができた。また、新型コロナウイルス感染症の影響を受け開催を見合わせていた夏の「きのくに祭り」を3年ぶりに開催した。</p> <p>⑥ 産業振興協議会を核に「オール基山」でのリアル店舗による町外への情報発信として、町の特産品の販売を通じて参加事業者の商品開発力やブランド力の向上を図った。</p>

### 3. 評価(Check)

プロジェクト評価	
プロジェクトの成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 産業振興補助金の支援によりエミュー等を活用した商品開発やブランドイメージを向上することができた。</li> <li>② 産業振興協議会「きやま通販」はHPの新規登録者や品揃えが増加し、ふるさと納税と連携したことにより売上向上につながった。</li> <li>③ 各種補助金の交付や新規就農の推進といった農業振興策と連動することで、中心経営体への農地の利用集積が進み、有機農業の規模拡大にも取り組むことができた。</li> <li>④ 農業の新たな担い手と地域農業者、関係機関及び先進的な取組を行っている方々との橋渡しを行うことで、地域農業の活性化を図ることが出来た。</li> <li>⑤ 「商店街にぎわいづくり事業」では3件のイベントを実施し、3日間で約1,341人の参加があった。また、3年ぶり開催の「きのくに祭り」には、5,000人の来場があった。「きやまkappo」は3日間開催し、570人の参加者を集めることができた。</li> <li>⑥ 「ふるさと名物市場」では、コロナ禍にあっても商品数を確保し、開店以来過去最高額の売上とすることができた。</li> </ul>
プロジェクトの課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>①②⑥ 事業者自らの商品開発を促すことに加えて、ジビエ解体処理施設を活用したイノシシとエミューの肉等の活用と販路拡大を促進し、また、良質なサカキの栽培を継続して数年後の出荷への好循環を目指す体制を維持し続ける等、「オール基山」で産業振興に向けた取組が必要である。</li> <li>③ 有機農業の拡大という面では、慣行栽培作物との差別化により付加価値は創出できているが、ブランド化や加工面での付加価値の創出ができていない。</li> <li>④ 農業の新たな担い手及び様々な分野の方々の多様なニーズや新たな取組に対して、相互が協力連携できるように支援していくためには、関係機関との連携を強化していく必要がある。</li> <li>⑤ 商店街のイベントは定着化しているが、継続的な集客を図るためには内容の改善や新しいイベント等の開催が求められる。</li> </ul>

### 4. 今後のプロジェクトの方向性(Action)

今後の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>①②⑥ 「オール基山」で産業振興に取り組む組織「基山町産業振興協議会」の取り組みを継続し定着させ、一貫して町内の農産物や加工品等の魅力向上と特産品の販路拡大に努める。</li> <li>③ 農業振興策と連動し中心経営体への農地集積を継続支援し、農山村地域での有機農業拡大やブランド化等の付加価値創出に取り組む。</li> <li>④ 農業の新たな担い手と様々な分野の方々との連携を支援するため、関係機関等との連携を強化しマッチング機能の強化を図っていく。</li> <li>⑤ 商店街を物品販売、飲食の場だけに留まらず、イベント開催を定着させることで誘客を図り、魅力あるまちなか資源として、有効活用を推進する。</li> </ul>
---------	---

1. プロジェクトの概要(Plan)

プロジェクト	プロジェクト番号	プロジェクト名
	2	企業支援プロジェクト
担当課(担当係)	産業振興課(商工観光係)、定住促進課(定住促進係、都市計画係)	
総合戦略の6つの柱	基本目標	
	①基山町への新しい「しごと」の流れをつくる	
プロジェクトの概要	想定する事業	
	① 雇用創出事業 (産業振興課) ② 企業支援事業 (産業振興課) ③ 移住支援事業 (定住促進課) ④ 産業用地拡大推進事業 (産業振興課、定住促進課)	
	施策の概要	
	① 地域を担う人材育成を推進するため企業、大学等と協働し、インターンシップの受入れや工場等見学会の開催を支援するとともに、高齢者の雇用促進の包括的な支援に取り組めます。また、近隣市町と連携した企業情報提供や就労マッチング等に取り組み、地元への定住と雇用の創出を図ります。 ② 企業誘致の優遇制度や誘致場所等の情報を発信し、町内外の企業及び事業所の設備投資等を促進するとともに、新たな商品やサービスを提供する創業者を掘り起し、創業のためのセミナー等を開催するなど関係機関と連携して創業支援に取り組めます。 ③ 移住に要する負担の軽減を図ることで、東京圏への一極集中の是正及び町内企業等の人材確保を目指します。 ④ 地区計画制度の周知や制度の活用を推進するとともに、既存緑地等の見直しを行い、企業が進出できる用地を確保します。	

2. プロジェクトの実績(Do)

令和4年度に実施した取組内容
<p>① コロナ禍の影響を受け、令和4年度は大学と連携したインターンシップ事業は実施しなかった。高齢者の雇用促進と包括的な支援のため、基山町生涯現役促進地域連携協議会による、合同企業説明会や工場見学会を実施した。また、基山町役場の正面玄関横の「無料職業紹介所」では、働きたい方と地元事業者のマッチングを促進し、近隣市町と連携した企業情報提供や就労マッチング等に取り組んだ。</p> <p>② 令和4年度は、コロナ禍のため社会経済活動が縮小し影響を受けた企業等に対して一部経費を補助するなど、町独自の支援を行った。また、企業誘致の優遇制度として企業立地奨励金を3社に交付した。さらに、新たな創業者の掘り起しのため、全6回の創業支援セミナーを開催した。</p> <p>③ 佐賀県と連携して、「移住支援金」を実施するとともに、令和4年度から「さが暮らしスタート支援事業に係る移住支援金」を新たに実施し、東京圏への一極集中の是正及び町内企業等の人材確保を図った。</p> <p>④ 島廻地区地区計画が令和5年4月上旬に都市計画決定され、今後、産業用地としての土地利用が行えるようになる。また事業希望者及びディベロッパーに対し、町の地区計画制度の活用を提案した。グリーンパーク内の黒谷緑地(都市緑地)について関係課で連携協議し、緑地から除外する手続きを行った。また、グランドクロス企業誘致部会において、近隣市及び福岡市と連携し、情報共有を図った。</p>

3. 評価(Check)

プロジェクト評価	
プロジェクトの成果・効果	<p>① 無料職業紹介所では、年間延べ1,420人以上の来所者に対応した。</p> <p>② 企業立地奨励金(イニシオフーズ株式会社7,120千円、日本タンクステン株式会社7,930千円、JA全農ミートフーズ株式会社23,600千円)を交付した。また、令和4年度には、創業支援セミナー等を受講した19名が創業した。</p> <p>③ 「移住支援金」については、令和4年度は1件の申請実績となった。</p> <p>④ 地区計画の申出書を受理している案件が1件あり、今後も地区計画による市街化調整区域の産業用地化が見込まれる。</p>
プロジェクトの課題・問題点	<p>① 雇用マッチングでは、佐賀県のUIJターン支援の取組や定住促進課とも連携する。</p> <p>② 町では企業を誘致できる土地が限られている。県企業立地課と連携して企業誘致を推進していく。また、奨励金等の金額が大きく複数年継続するため、財政計画を示しておく必要がある。</p> <p>③ 「さが暮らしスタート支援事業に係る移住支援金」については、令和4年度においては申請が0件であり、「移住支援金」とともにさらなる制度周知を図る必要がある。</p> <p>④ 地区計画の策定には周辺住民との合意形成が必要なため、検討の段階から周辺住民へ丁寧に説明をする必要がある。</p>

4. 今後のプロジェクトの方向性(Action)

今後の取組内容	<p>① 生涯現役促進地域連携事業の後継事業である生涯現役地域づくり環境整備事業を活用して、3年間企業向けの雇用に関する制度説明会や人材育成のための地域資源活用セミナーを実施するとともに、求職者向けの工場見学会及び就職相談会を実施する。</p> <p>② 町の優遇制度や誘致場所等の情報を発信して、町内の企業及び事業所の設備投資等を支援する。</p> <p>③ 「移住支援金」及び「さが暮らしスタート支援事業に係る移住支援金」は佐賀県と連携して実施している事業である。制度利用の推進を図るために、補助要件の拡充を検討し、要綱の制定・改正を行うとともに、制度の効果的な周知を行い、今後も継続して事業実施を行う。</p> <p>④ 総合計画や都市計画マスタープランなどの町の上位計画と整合性を図りながら、引き続き地区計画制度の活用を推進を図る。</p>
---------	--

1. プロジェクトの概要 (Plan)

プロジェクト	プロジェクト番号	プロジェクト名
	3	交流人口・関係人口増加プロジェクト
担当課(担当係)	産業振興課(商工観光係)、定住促進課(定住促進係)、まちづくり課(協働推進係、文化・スポーツ係)、企画政策課(広報・情報管理係)、総務課(給与係)	
総合戦略の6つの柱	基本目標	
	②基山町への新しい「ひと」の流れをつくる	
プロジェクトの概要	想定する事業	
	① まちのにぎわい創出施設整備事業 (産業振興課) ② おもてなし環境整備事業 (産業振興課、定住促進課、まちづくり課、企画政策課) ③ 関係人口創出・拡大事業 (まちづくり課、総務課)	
	施策の概要	
① まちのにぎわいづくりや景観づくりを目的に、駅前周辺など、まちの中心的な施設を整備します。 ② 町内の様々な団体や個人と連携し、おもてなし環境の強化として、キャッシュレス決済や公衆トイレ、町内マップ、多言語サイン看板、Wi-Fi環境等の整備を推進します。 ③ 大学や高校、企業、NPOと連携し、地域課題の解決や新たな取り組みなどの地域との関わりを多様に検討し、実施することで、町外から基山町に継続的に関わりを持つ人材の増加を図ります。		

2. プロジェクトの実績 (Do)

令和4年度に実施した取組内容
① JR基山駅利用者の利便性向上のために、基山駅自由通路(町道基山駅通り線)にコインロッカーを設置した。 ② ・公共施設のWi-Fi環境は、基山町民会館、基山町総合体育館、基山町立図書館、多世代交流センター憩の家、福祉交流館、基山つ子みらい館、基山町合宿所及びまちなか公民館で整備が完了した。 ・高速道路基山パーキングに開設している「ふるさと名物市場」において非接触型の決済サービスを推進するため、キャッシュレス決済に対応したレジ等の運用を開始し、併せて什器等を入れ替え、売り場の整備を完了した。また、高速道路基山パーキングを活用して、秋に町内事業者の様々な特産品等を展示・販売する特産品フェアを開催した。 ・おもてなし環境の向上を図るため、散策コースマップのリニューアルや基山町の魅力を体験できるように町内の観光施設等を自転車で巡れるコースやマップ及び動画を作成した。併せてコースやマップを活用したツアーやイベントを行った。 ・JR基山駅入口付近に基山(きざん)方面までのQRコード付き案内板及びサインを設置し、来訪者へのおもてなし整備を行った。 ・体験型観光の紹介サイト「きままにきやま」で、体験内容や協力事業者等の情報発信を行った。 ・春と秋にJR九州ウォーキングを実施し、約11kmのコースの随所で町内の事業者やボランティア団体等におもてなしの協力をいただいた。 ③ 基山(きざん)・基津城をテーマに佐賀県の担当職員や大宰府天満宮宮司、町内活動団体等の基山に関わり活動をする方を講師に迎え、講座を開催した。また、企業により清掃活動などの社会貢献活動を実施していただいた。インターンシップの受け入れを鳥栖工業高校2名、東明館高校2名行った。

3. 評価 (Check)

プロジェクト評価	
プロジェクトの成果・効果	① コインロッカーの設置等、JR基山駅利用者の利便性向上に向けた協議等を進めることができた。 ② ・「ふるさと名物市場」における非接触型の決済サービスの推進をすることができた。また、高速道路基山パーキングを活用し、町内事業者の様々な特産品の情報発信等を行うことができた。 ・散策コースマップやサイクリングマップを作成し、町内外の皆様への町の魅力の発信やおもてなし環境の向上を図ることができた。 ・町内での体験型観光について、「きままにきやま」を通じて発信を続けている。春と秋のJR九州ウォーキングには、1,852人が本町を訪れた。 ・「元禄絵図」に描かれた現存する道へ案内サインを設置することで、回遊性が確保された。また、「おもてなしマップ」を町内公共施設に配架するだけでなく、各種イベントにて配布を行うことにより、町外の方へ向けた本町の魅力・観光の情報発信を行い、町内外の皆様に対する「おもてなし」の向上を図ることができた。 ③ 感染症対策を実施して4回の講座を開催した。基山(きざん)についてグループワークを行ったり、実際に基山(きざん)に登り現地で説明を受けたりした。
プロジェクトの課題・問題点	① 電動アシスト付レンタサイクル「キマチャリ」は、移動手段の一つとして利用してもらえるよう、設置の周知や町内周遊モデルコース等の案内により、利用増進を図るとともにサイクリングマップやコースの利用者増加を目指す。 ② ・Wi-Fiについては、庁舎内は整備されておらず、情報発信の環境に課題がある。 ・コロナ禍の移動自粛等により、イベントの中止が多く、誘客が縮小している。 ・案内サイン設置に際しては、街歩きに適した設置場所や表示内容について入念に検討する必要がある。 ・「おもてなしマップ」の配置場所及び配布方法を検討し、さらに効果的な本町の情報発信を行う必要がある。 ③ 受講者が固定化してきているため、新たな受講者の獲得が必要。

#### 4. 今後のプロジェクトの方向性(Action)

<b>今後の取組内容</b>	<p>① 「えきしたラウンジ」では、今後も情報発信やくつろぎ空間の創出を行い、交流の増進や町内観光の促進を図る。</p> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・情報発信力の向上のため、庁舎内Wi-Fiについても導入を検討する。</li><li>・情報発信効果の高い高速道路基山パーキングエリアを活用して、町内事業者の様々な特産品等を展示販売するキャンペーンを企画し開催する。また、コロナ禍に配慮し、非接触型の決済サービスやポイント付加等を推進し、実施主体を支援する。</li><li>・サイクリングリスト向けのイベント等を開催し、サイクリングを通じた町の魅力発信を行うとともに、町外から訪れた皆様に対するおもてなし環境の整備を推進していく。</li><li>・基山町歴史的風致維持向上計画に関する整備方針・事業計画に基づき、町内の25か所に案内サインを設置予定。「おもてなしマップ」の掲載情報を更新しながら、引き続き、事業実施を行う。</li></ul> <p>③ 受講者が興味を持てるような魅力的なテーマを設定し、新規参加を促す。</p>
----------------	---

1. プロジェクトの概要(Plan)

プロジェクト	プロジェクト番号	プロジェクト名
	4	まちの集客拠点活用プロジェクト
担当課(担当係)	まちづくり課(文化・スポーツ係、図書館係)、教育学習課(ふるさと歴史のまち推進係)	
総合戦略の6つの柱	基本目標	
	②基山町への新しい「ひと」の流れをつくる	
プロジェクトの概要	想定する事業	
	① まちの施設活用事業 (まちづくり課) ② まちの交流拠点整備活用事業 (まちづくり課、教育学習課) ③ まちの情報発信事業 (まちづくり課、教育学習課)	
	施策の概要	
① 地域活性化と交流人口の増加を目的に、町民会館や図書館、合宿所、総合体育館、多目的グラウンドなどでの文化・スポーツなどのイベントを積極的に開催又は誘致します。 ② 来訪者のみならず、町民も含め、情報発信と情報取得、情報交換の場として、基肄城跡などを活用した町の交流拠点の整備及びリノベーションを図ります。 ③ 関係機関と連携し、就労情報やイベント情報など町の様々な情報の発信を、図書館等で行い、まちの回遊性を高め、周遊環境の充実に努めます。		

2. プロジェクトの実績(Do)

令和4年度に実施した取組内容
① 文化イベントとして町民会館で、9月「宝くじ文化公演EBIKEN THE ENTERTAINMENT」、11月「基山町文化祭」、12月「きやま創作劇枯松二国境物語」、1月「アルモニア管弦楽団ニューイヤークンサート」、2月「アイが大きい基山町音楽祭」、3月「きやまジュニアダンスフェスティバル」を開催した。 また、スポーツイベントとして、5月「区対抗スポーツ大会」、8月「久光スプリングスバレー合宿」、11月「クロスロードスポーツレクリエーション祭」、12月「きやまロードレース大会・きやまスロージョギング®大会」、「早田ひな選手卓球教室」、2月「小学生駅伝大会」、「サガン鳥栖サッカー教室」を開催した。 ② 基肄城跡南門跡周辺において、水門取水部の災害復旧(=堰の復元、橋の復元等)や史跡標柱の復元、説明版の設置など環境整備を実施した。 ③ 図書館内の展示として、役場内の関係各課や町内の団体と連携して、消費者月間・環境月間・男女共同参画・オレンジリボン運動、その他各種イベント(基肄城絵はがきコンクール、創作劇「枯松二国境物語」など)の展示や掲示を行った。また、ビジネス支援コーナーやキヤマラウンジにて、基山町無料職業紹介や求人情報の資料の設置による就労情報の発信や、観光協会や商工会などの町内イベント情報等のチラシの設置による、町の情報発信・協力を行った。また、仕事に役立つ本の紹介を行うビジネスメールマガジンを配信し、ビジネス支援圖書の充実に努めた。

3. 評価(Check)

プロジェクト評価	
プロジェクトの成果・効果	① 年間をとらして、文化イベント・スポーツイベントを開催し、地域活性化を図った。 ② 基肄城跡を訪れる人のために、基肄城跡南門跡周辺の環境整備を行った。今回の整備により、災害前の状況に戻し、安全に見学できるようになった。また、史跡標柱の復元やイラストや写真等を多用した分かりやすい案内板の設置により、特別史跡としての表示の明確化及び特別史跡基肄城跡の理解を促進するほか、基肄城跡来訪者の利便性向上を図った。 ③ 図書館が行政や町内団体と連携することで、図書館の利用者層が増え圖書の貸出に繋がっている。就職支援やビジネスメールマガジンなどの情報発信をすることで、多くの方に周知・利用いただいた。また、基肄城に係るイベント展示においては基肄城跡をはじめとする町内の文化遺産に関心をもっていただくきっかけづくりができた。
プロジェクトの課題・問題点	① 10月に予定していた町民体育大会が新型コロナウイルスのため開催できなかった。 ② 基肄城跡水門に至るまでのサイン整備を充実させる必要がある。また、当該地までは、マイクロバスまでの大きさの車両しか通行できないため、将来的には、大型観光バスの乗り入れができる工夫が必要と思われる。加えて便益施設周辺の清掃や敷地周辺の植栽管理を定期的に行う必要がある。その他、史跡内のサイン計画を策定し、初めての来訪者に対しても分かり易い案内板等を順次整備する必要がある。 ③ 情報発信や展示がマンネリ化しないよう情報を集め、目新しい情報発信となるよう新たな連携や「見せ方」などの検討が必要である。文化遺産に関心がない人にも必要な情報が行き渡るようにする。

4. 今後のプロジェクトの方向性(Action)

今後の取組内容	① 引き続き、文化イベント・スポーツイベントを開催する。 ② 便益施設およびその周辺についての維持管理を適切に行うとともに、基肄城跡へ至るサインの整備及び特別史跡内のサインの充実を図り、多くの来訪者が楽しく快適な探訪ができるように工夫をする。 ③ 引き続き、行政や町内団体との連携に努めるとともに、町民の求めに答えられるよう圖書や情報を収集し整備する。また、収集整備の幅をデジタル情報まで広げ、「図書館だからできること」を推進していく。その他、入館者が多い図書館等で文化遺産の情報を適切な時期に情報発信を心掛ける。
---------	---

1. プロジェクトの概要(Plan)

プロジェクト	プロジェクト番号	プロジェクト名
	5	歴史・観光資源活用プロジェクト
担当課(担当係)	教育学習課(ふるさと歴史のまち推進係)、産業振興課(商工観光係)	
総合戦略の6つの柱	基本目標	
	②基山町への新しい「ひと」の流れをつくる	
プロジェクトの概要	想定する事業	
	① 歴史のまちづくり推進事業 (教育学習課) ② まちの観光資源活用事業 (産業振興課) ③ おもてなし活動支援事業 (産業振興課)	
	施策の概要	
① 『基山町歴史的風致維持向上計画』に基づき、歴史的風致形成建造物の保存修理事業や歴史的市街地の修景事業等の各種事業に取り組みます。 ② まちの観光資源を活用し、観光と産業振興が連動した情報発信や特産品の販売促進等を実施し、集客効果の向上を図ります。 ③ 基山の様々な資源を活用した『おもてなし』活動を支援します。		

2. プロジェクトの実績(Do)

令和4年度に実施した取組内容
<p>① 天智天皇欽仰之碑や通天洞を歴史的風致形成建造物に指定した。また、荒穂神社の参道(荒穂神社線)の美装化を行った。</p> <p>② 大興善寺のつつじと紅葉の見ごろにあわせて、産業振興協議会主催による軽トラ市「きやま門市」を、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行った上で開催し、特産品の販売促進を図った。春と秋のJRウォーキングとともに、事業者が出店し、特産品の販売及びPRを行い、多くの来場者でにぎわった。さらに、高速道路基山パーキングエリア内で町の情報発信基地及び特産物直売所として「基山ふるさと名物市場」を引き続き設置し、地元の野菜・食品加工・工芸品の直売を行った。同時に、観光案内コーナーにおいて、町の情報発信を行った。また、体験型観光事業として、基山町における職人の作業及び産業等を一定期間体験できる「きやま留学」事業を実施し、観光と産業振興が連携した情報発信を行った。</p> <p>③ 体験型観光サイト「きままにきやま」を整備し、町内の文化や暮らしにふれる体験メニューを掲載して、事業者の活動を支援した。春・秋のJR九州ウォーキングでは、スタート受付会場において、観光パンフレットの配布や、町独自のポイントラリーを用いたおもてなし活動を行った。さらに、JR基山駅から大興善寺を周遊する約11kmのコースの随所で、町内の事業者やボランティア団体などの皆様におもてなしの協力をいただいた。</p>

3. 評価(Check)

プロジェクト評価	
プロジェクトの成果・効果	<p>① 天智天皇欽仰之碑や通天洞を歴史的風致形成建造物に指定し、歴史的風致の向上を図った。また、荒穂神社の参道の美装化を行い、歴史的風致や景観の保全を図った。</p> <p>② 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を十分に行った上で、「きやま門市」を大興善寺のつつじと紅葉の見頃に合わせて実施した。参加者は1,852人であった。</p> <p>基山PA「ふるさと名物市場」では、コロナ禍でも地元の野菜・食品加工・工芸品の売上を維持することができた。</p> <p>③ 体験型観光サイト「きままにきやま」を通じて、本町のおもてなしの情報を発信した。また、JR九州ウォーキングでは、JR基山駅から大興善寺を周遊するコースの随所で、町内の事業者やボランティア団体などの皆様におもてなしの協力をいただいた。</p>
プロジェクトの課題・問題点	<p>① 建造物調査と今後の建造物修理計画の整合性を図る必要がある。また、調査・修理対象を抽出し、計画的な調査・修理・活用を考える必要がある。その他、歴史的建造物の保全に努めるとともに基肆城跡を快適に周遊できるよう分かりやすいサイン等を順次設置していくことが必要であり、その方針等を検討する。</p> <p>② 観光名所や時期と連携した催事の開催とともに、産業振興協議会会員を増やし、本町の特産品等の販売促進と来場者の増加を目指す。</p> <p>③ 体験型観光サイト「きままにきやま」掲載の体験サービス(おもてなし)実施者の意思の高揚を図り、参加事業者の拡大と誘客を推進する。</p>

4. 今後のプロジェクトの方向性(Action)

今後の取組内容	<p>① 『基山町歴史的風致維持向上計画』に基づき、歴史的風致形成建造物の保存修理事業や長崎街道沿いの歴史的市街地の修景事業等の各種事業に取り組む。また、取り組みにあたっては、地元や地域住民の意向を反映させながらプロジェクトを遂行する。</p> <p>②③ 恋人の聖地事業(地方創生推進交付金)等を活用して、地域資源を活用したおもてなしのまちとしてプロモーションを行う。情報発信効果の高い高速道路基山パーキングエリアを活用して、町内事業者の様々な特産品等を展示販売するキャンペーンを企画し開催する。</p>
---------	---



1. プロジェクトの概要(Plan)

プロジェクト	プロジェクト番号	プロジェクト名
	6	婚活応援プロジェクト
担当課(担当係)	定住促進課(定住促進係)	
総合戦略の6つの柱	基本目標	
	③結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくり	
プロジェクトの概要	想定する事業	
	① 婚活応援事業 (定住促進課) ② 婚活希望者登録マッチング事業 (定住促進課)	
	施策の概要	
① 交際や結婚を望みながらも、出会いの機会に恵まれない方々に出会いの場を提供し、結婚と定住のきっかけを作るため、婚活イベントやセミナーを開催し、成婚に向けたサポート等を実施します。 ② 結婚を希望する男女を登録し、お互いの希望に応じたマッチングを行うことで、成婚への支援に取り組みます。		

2. プロジェクトの実績(Do)

令和4年度に実施した取組内容
① 婚活セミナー(1回:「基山町で考えるイマドキ婚活～令和時代の結婚と仕事のバランス～」10名参加)・婚活イベント(1回:「星空恋活」男性10名、女性10名参加、3組マッチング成立)を開催し、婚活のサポートを実施した。
② 結婚を希望する男女を登録し、婚活に関する相談及び町主催の各種イベントなどの情報提供を行う「基山町婚活支援事業」を実施し、成婚への支援を実施した。

3. 評価(Check)

プロジェクト評価	
プロジェクトの成果・効果	① 婚活イベントでは定員を超える申し込みがあった。また、イベントでは3組のマッチングが成立し、多くの結婚を希望する方々のサポートを図ることができた。また、セミナー・イベントともに集合型で実施することができ、アフターコロナを意識した事業実施ができた。 ② 「基山町婚活支援事業」では男女ともに新規の登録があり、婚活セミナー・イベントを通して婚活支援を実施した。また、登録者に対し、町主催の婚活イベントなどの情報提供を行い、出会いの場の提供を行った。
プロジェクトの課題・問題点	① セミナーについては、参加者が定員に達しなかった。実施方法を含めて、効果的なイベントとなるよう検討する必要がある。 ② 「基山町婚活支援事業」では新規の登録希望をいただいたが、さらに登録者数の増加を図るため、より効果的な制度周知を行う必要がある。

4. 今後のプロジェクトの方向性(Action)

今後の取組内容	① 今後も継続して事業実施を行い、結婚と定住のきっかけを作るために、成婚に向けたサポート等を実施する。 ② 今後も継続して、「基山町婚活支援事業」を実施し、結婚を希望する男女に対する成婚への支援に取り組む。
---------	--

## 1. プロジェクトの概要(Plan)

プロジェクト	プロジェクト番号	プロジェクト名
		7
担当課(担当係)	こども課(こども未来係、こども家庭係、みらい館係)、健康増進課(子育て支援包括係)、教育学習課(学校教育係)	
総合戦略の6つの柱	基本目標	
	③結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくり	
プロジェクトの概要	想定する事業	
	① 新たな命支援事業 (健康増進課) ② 基山っすこやか成長支援事業 (こども課、健康増進課、教育学習課) ③ 基山っすみらい館事業 (こども課) ④ 子育て支援事業 (こども課、教育学習課)	
	施策の概要	
① 妊婦健診及び乳幼児健診を継続し、疾病等の早期発見や母子健康づくり、育児不安の解消等に努め、更なる充実を図ると共に、母子手帳交付及び妊婦健診等により、妊娠期から関わりを持ち、妊娠・出産・子育てに関する情報を積極的に発信し、不妊治療支援と出産期前後の様々な支援に取り組みます。 ② 子どもの医療費助成や入院等の支援枠の拡充、予防接種に関する費用の助成や保育サービス並びに子育て交流広場の充実、親子料理教室の開催、町立小中学校施設整備、放課後児童教室の充実、病後児保育など、子どもに関わる関係機関や団体との連携体制の確立と情報の共有化を促進し、子育て支援体制の充実を図ります。 ③ 基山っすみらい館を活用し、子育て支援関係機関が連携した保育サービス等の充実を図るとともに、基山町無料職業紹介所と連携した就労支援の取組みや中堅・中小・小規模事業者等が主体となった就労セミナーや復職研修などを実施します。 ④ 就学前の教育・保育から小学校教育へ移っていく過程におけるトータルサポーターを配置し、発達診断検査を行うなど、教育の連動性と学びの基礎力を養うと共に、地域と連携した小中学生の放課後支援にも取り組みます。		

## 2. プロジェクトの実績(Do)

令和4年度に実施した取組内容
① ・妊婦健診及び乳幼児健診の継続。 ・不妊治療費(経過措置分)の助成実施。 ・ぽっぽの会(1歳未満)やパンビの会(1歳～未就園児)などの育児教室を継続実施し、支援が必要な子どもとその家族への早期介入の実施。 ・産前・産後サポート事業の継続。産後うつ等の予防や新生児への虐待防止を図るため産婦健康診査事業を継続実施。また、産後も安心して子育てができる支援体制の確保を図るため産後ケアを継続して実施。 ② ・子どもの医療費助成について、令和4年4月の保険診療分から自己負担無償化を実施した。 ・新たに小規模保育施設(定員12人)1園の認可を行った。 ・子育て交流広場において、イベントや教室等を開催した。 ・子育て交流広場に子育てコンシェルジュを配置し、育児の悩みや相談に応じた。 ・定期予防接種費用の助成を継続して実施した。 ・各園と連携し、支援が必要な子どもやその家族への早期介入やフォローを実施した。 ・病後児保育事業を継続実施し、保護者の子育てと就労等の両立ができるよう支援を行った。 ・放課後児童クラブについて、新型コロナウイルス感染拡大予防のため扇風機10台購入、ひまわり館(O教室)に電解水生成装置を設置した。また、オンライン研修等に対応するためタブレット5台を購入した。 ・要配慮児童等の対応に専門的な知識・対応が必要となっているため、要配慮児童対応支援員派遣業務委託事業を令和4年度も引き続き行い、支援員向けの研修を2回実施。子育て支援ネットワークコーディネーター(臨床心理士、社会福祉士)との連携会議を行い情報共有を行った。 ③ ・基山町内の幼稚園や保育園、6園の代表者を定期的に集め連携会議を行った。 ・子育て支援ネットワークコーディネーターを派遣し、基山町内の保育施設等の巡回や個別相談を実施した。 ④ ・4歳児就学準備事業で特性検査を実施した。 ・4歳児就学準備の特性検査後、就学に向けて課題があると思われる児童に対してフォローアップ事業を実施した。 ・小学校と幼稚園・保育園の連携を図るため、幼保小連絡会を定期的に開催し、就学前後のつなぎをスムーズにすることにより、小1プロブレムが起こらないよう対応した。基山町就学相談会では、町内の特別支援教育担当の先生方にも専門の相談員と共に助言いただき、入学までの相談や学校見学にも細やかに対応した。各小学校では、毎週水曜日の放課後に3年生と6年生を対象にした放課後補充学習を実施し、基礎学力の定着を図った。中学校においても全学年の希望者を対象に週1回程度の放課後補充学習を実施した。放課後補充学習でもタブレット端末を用いた自学形式を行い、各自の目標に応じて、自分に合ったスピードで学習を進めることができた。令和4年度も地域の方々に講師を迎え、学習のサポートを行っていただいた。

### 3. 評価 (Check)

プロジェクト評価	
プロジェクトの成果・効果	<p>① 産前・産後サポート事業や妊婦健診及び乳幼児健診など事業を継続して行っていくことで、妊娠・乳幼児期から信頼関係を築くことができ、良いフォローに繋がっている。</p> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・0歳から18歳までの子どもの医療費の自己負担額全額助成を実現し、より充実した子育て支援となった。</li> <li>・新たに小規模保育施設を認可することで需要の高い0～2歳児の定員が増加し、待機児童を出さない取組に貢献している。</li> <li>・子育て交流広場でイベントや教室等を開催することにより、お母さんたちの子育てに関する情報交換や交流の場となった。</li> <li>・子育てコンシェルジュを配置したことにより、育児の悩みや相談に応じた情報提供や関係機関への案内がスムーズにできた。</li> <li>・予防接種の費用助成を行うことにより、予防接種の接種率を維持することができた。</li> <li>・町内保育施設からの電話相談等に対応し、連携することができた。</li> <li>・病後児保育事業実施により、保護者の子育てと就労等の両立が図れるようになった。</li> <li>・年々、配慮が必要な児童が増えているが、実践的な助言や具体的なケース毎の対応研修を行い、適切な教室運営を行うことができた。</li> </ul> <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6園合同会議により、幼稚園・保育園との情報共有ができた。</li> <li>・子育て支援ネットワークコーディネーターの巡回や個別相談により、支援の方法等のアドバイスや関係機関への案内を行うことができた。</li> </ul> <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4歳児の特性検査実施により、子どもたちの得意なこと苦手なことを確認することができ、苦手なことについては、フォローアップ事業で対処した。</li> <li>・幼保小連携ができたことにより、各小学校での目立った小1プロブレムはなかった。特別支援学級入級児童についても、入学前に学校見学をしていたこともあり、大きな混乱もなく学習することができた。小学校放課後補充学習iiゼミ参加人数(3年生87人、6年生61人)、中学校放課後補充学習(チャンス学習)参加人数(1年54人、2年60人、3年14人)を募ることができた。</li> </ul>
プロジェクトの課題・問題点	<p>①② 子どもとその家族への継続した細やかなフォロー体制の構築。</p> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病後児保育施設の利用者を増やすため、周知の方法等含め検討していく必要がある。</li> <li>・今後、宅地開発や共働き家庭の増加により、登録児童数増が見込まれるため、支援員の確保や施設整備が課題となってくる。</li> </ul> <p>②③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化や核家族化により、子どもの育児に不安や悩みを持つ保護者や地域で孤立した子育てを行う保護者が年々増加している。</li> </ul> <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就学前、小・中学校まで継続した支援が行えるよう関係機関との情報連携が必要である。</li> <li>・幼稚園・保育園での就学相談会に勤める基準がばらばらで、通常学級が適当な児童まで就学相談を受けてしまい、増加傾向にある。</li> </ul>

### 4. 今後のプロジェクトの方向性 (Action)

今後の取組内容	<p>① 妊娠期から子育て期にわたるまで切れ目のない子育て支援を目指し、現在行っている事業を継続して行い、支援が必要な子どもとその家族の早期発見・早期介入を目指していきたい。また、子育て世代包括支援センターにおいて、妊娠期から子育て期までの様々な不安や悩みについての相談に応じ、必要な情報提供ができるよう取り組んでいきたい。</p> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・待機児童なしの取組を継続するため、保育ニーズを調査分析し、保育の量の確保を適切に行っていきたい。</li> <li>・現行の予防接種費用の助成を継続し、町内保育園施設等の連携体制の確立や情報共有を図ることにより、子育て支援体制の充実を図っていきたい。</li> <li>・今後も継続して、児童が放課後に安心して過ごせる場として適切な環境整備を行い、児童の健全育成を図っていく。</li> </ul> <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な6園合同会議を開催していく。</li> <li>・子育て支援ネットワークコーディネーターの巡回及び個別相談を継続していく。</li> <li>・基山町無料職業紹介所と連携して、就労支援のためのセミナーや研修等を開催していく。</li> </ul> <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級及び通級指導教室に入級する基準を明確にし、子育てネットワークコーディネーターとの連携を図っていく。</li> </ul>
---------	--

1. プロジェクトの概要(Plan)

プロジェクト	プロジェクト番号	プロジェクト名
	8	住宅環境整備プロジェクト
担当課(担当係)	定住促進課(定住促進係、都市計画係)	
総合戦略の6つの柱	基本目標	
	③結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくり	
プロジェクトの概要	想定する事業	
	① 住宅支援事業 (定住促進課) ② 宅地開発推進事業 (定住促進課) ③ 町内住み替え支援事業 (定住促進課) ④ 町営住宅整備検討事業 (定住促進課) ⑤ 移住体験住宅事業 (定住促進課) ⑥ 移住情報発信事業 (定住促進課)	
	施策の概要	
	① 子育て・若者世代の定住促進を目的に、結婚などによる新生活への支援や住宅取得補助などの様々な定住施策を推進します。 ② 市街化区域内で一定基準を満たす宅地開発を行う民間開発事業者に対し、開発地に接する道路整備に関する整備費の一部助成を行うと共に、地区計画制度を活用して市街化区域に隣接する市街化調整区域の住宅用地化、都市計画の線引き見直し等による宅地開発を推進します。 ③ ライフスタイルに合わせた町内での住み替えを希望する高齢者や子育て・若者世代の意向を踏まえ、関係機関と連携した移住・定住をサポートします。 ④ 町営住宅の長寿命化計画に基づき、建替を含めた効果的な改修・修繕を行います。 ⑤ 町の施策等の情報発信を福岡都市圏中心に行い、興味を持っていただいた方々への更なる情報提供と移住体験住宅の利用を促し、移住・定住に向けた裾野を広げます。 ⑥ 福岡都市圏を中心とした通勤圏内の子育て・若者世代をターゲットに、基山町ホームページや移住定住ポータルサイト等を活用した移住施策の情報発信を促進します。	

2. プロジェクトの実績(Do)

令和4年度に実施した取組内容
<p>① 「子育て・若者世帯の住宅取得補助金(交付45件:16,400千円)」及び「結婚新生活支援補助金(交付6件:1,231千円)」を実施し、子育て・若者世代の移住・定住の促進を図った。</p> <p>② 夜水地区地区計画・塚原地区地区計画が令和5年4月上旬に都市計画決定され、今後、住宅用地としての土地利用が行えるようになる。道路整備に関する補助金制度については、交付条件を満たす宅地開発が行われなかったため補助金申請は行われなかった。</p> <p>③ ライフスタイルに合わせた町内での住み替えを促進するため、「子育て・若者世帯の住宅取得補助金」を実施するとともに、町ホームページを活用し、国の住宅リフォーム助成制度の周知を行った。</p> <p>④ 公営住宅等長寿命化計画で「建替」の判定となっている町営園部団地の入居者移転支援策として、「入居者移転補助金(交付4世帯:412千円)」、「移転先住宅家賃補助金(交付2世帯:72千円)」を創設し、園部団地入居者の移転促進を図った。また、計画に基づき、長寿命化及び居住性向上を図るため、必要性の高いものから優先的に修繕を実施した。</p> <p>⑤ 町ホームページを中心に移住体験住宅のPRを行い、22件の利用(小倉移住体験住宅9件、宮浦移住体験住宅13件)があった。また、利用者に対し、利用期間中に使用できるコミュニティバスのお試しパスポート及びおもてなしマップを配布し、町内での周遊性を高めた。</p> <p>⑥ 町ホームページを中心に移住体験住宅及び各種移住支援施策の紹介を行うとともに、佐賀県や民間企業との連携による移住オンラインイベントに参加した。また「町内おもてなしマップ」を町内公共施設に配架するとともに、各種イベントにて配布を行い、町の魅力を効果的に発信した。</p>

### 3. 評価 (Check)

プロジェクト評価	
プロジェクトの成果・効果	<p>① 基山町への移住・定住促進を目的に、「子育て・若者世帯の住宅取得補助金」を実施し、交付決定45件中30件(94名)の方が基山町へ移住された。本事業の効果による人口増加に伴い、0歳～9歳までの人口割合が増加し、各年代が平準化された年齢構成の推進を図ることができた。また、結婚による新生活のサポートとして「結婚新生活支援補助金」を実施し、交付決定6件中5件(9名)の方が基山町へ移住された。その他、様々な住宅支援事業により、大東建託株式会社 賃貸未来研究所による「街の幸福度&amp;住み続けたい街ランキング2022&lt;佐賀県版&gt;」において、「街の幸福度ランキング」、「住み続けたい街ランキング」ともに、2年連続で本町が佐賀県で第1位に選ばれた。</p> <p>② 地区計画の申出書を受理している案件が1件あり、今後も地区計画による市街化調整区域の住宅用地化が見込まれる。</p> <p>③ 「子育て・若者世帯の住宅取得補助金」については、交付決定45件中15件(59人)の方が町内住み替えをされた。</p> <p>④ 「入居者移転補助金」、「移転先住宅家賃補助金」を実施し、町営園部団地入居者の移転促進を図ることができた。また、計画的な修繕を実施し、町営住宅の居住性向上及び長寿命化を図ることができた。</p> <p>⑤ 町ホームページを中心に移住体験住宅のPRを行い、コロナウイルスの影響があったものの、22件の利用をいただくことができた。</p> <p>⑥ 町ホームページを中心に各種移住支援施策の紹介を行うとともに、佐賀県や民間企業と連携してイベントを実施することにより、町の効果的なPRを図ることができた。また、「町内おもてなしマップ」による町の魅力を発信することにより、町内外の皆様に対する「おもてなし」の向上を図ることができた。</p>
プロジェクトの課題・問題点	<p>① 継続して本事業を実施することにより、本町への移住・定住を促進することが必要である。</p> <p>② 地区計画を策定し市街化調整区域を住宅用地化する際には、周辺住民の合意形成が必要なため、検討の段階から周辺住民へ丁寧な説明をする必要がある。</p> <p>③ 今後は、町内での住み替えの受け皿として、空家の活用を検討する必要がある。空家の活用に対する家屋所有者の意向を把握し、理解促進を図るとともに、空家活用を含む各種住宅施策を包括的に整備する手法を検討する必要がある。</p> <p>④ 公営住宅等については園部団地については建替についての理解促進を進めるとともに建替の事業手法を検討する必要がある。また、本桜団地・割田団地についても老朽化が進んでいるため、劣化状況等から判断し、修繕の必要性の高いものから順に修繕を実施する必要がある。</p> <p>⑤ 移住体験住宅については、アフターコロナの状況にマッチした積極的・効果的な情報発信を図る必要がある。</p> <p>⑥ これまでの移住情報以外にも、新たな視点で地域資源を見直し、それらを活かした移住促進情報の発信に努める必要がある。</p>

### 4. 今後のプロジェクトの方向性 (Action)

今後の取組内容	<p>① 各種補助金については交付実績が安定した数字で推移している。今後も継続して事業実施を行う。</p> <p>② 総合計画や都市計画マスタープランなどの町の上位計画と整合性を図りながら、引き続き地区計画制度の活用を推進を図る。</p> <p>③ 町内住み替えについては、今後も継続して「子育て・若者世帯の住宅取得補助金」を実施するとともに、空家の活用を推進するために、家屋所有者に対して、空家の活用についての理解促進を図る。</p> <p>④ 今後も長寿命化計画に基づき、計画的な維持管理を行うことにより、公営住宅等の長寿命化を図る。また、園部団地については入居者の理解を得ながら建替に向けて継続的に事業実施を行う。</p> <p>⑤ 移住体験住宅は基山町の暮らしを実際に体験していただくための貴重な施設であるため、今後も継続して事業実施を行う。</p> <p>⑥ 「住みたいまち基山の創造」の実現のために、佐賀県などと連携し、基山町で暮らす魅力や基山町の地域資源を活用した移住プロモーション活動を充実させるため、引き続き、子育て・若者世代をターゲットに効果的な情報発信を行う。</p>
---------	---

## 1. プロジェクトの概要(Plan)

プロジェクト	プロジェクト番号	プロジェクト名
	9	安心安全のまちづくりプロジェクト
担当課(担当係)	住民課(くらしの安心・安全係)、総務課(防災係)	
総合戦略の6つの柱	基本目標	
	④安心と安全をベースにオール基山のまちづくり	
プロジェクトの概要	想定する事業	
	①くらしの安心・安全推進事業(住民課、総務課) ②くらしの安心・安全設備等整備事業(住民課)	
	施策の概要	
<p>①安全なまちづくり推進協議会で検討を行い、補導員等と連携し、町民相互の見守り連絡体制の整備や交通マナーの向上、防犯パトロール等の強化、運転免許返納者への支援を行います。また、各区の自主防災組織を対象に防災研修や避難訓練を実施すると共に、情報伝達手段の検討や整備を行います。</p> <p>②町民の安心・安全や防災・減災のための防犯カメラや防犯灯などの設備や施設を検討し整備を行うと共に、交通事故件数の削減に有効な安全装置等に対する補助を検討し実施します。</p>		

## 2. プロジェクトの実績(Do)

令和4年度に実施した取組内容
<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安全なまちづくり推進協議会委員、補導員、男性ボランティアの会(男ボラ会)等により、地域での見守り活動や青色回転灯積載車による定期的な巡回パトロールを130回実施した。</li> <li>鳥栖・三養基地区交通安全協会、鳥栖警察署、交通安全指導員による交通安全街頭キャンペーン、小中学校での交通安全教室、登下校における地域での交通安全見守り活動を実施した。</li> <li>高齢者等への交通安全教育については、広報等で定期的に交通安全に関する内容を掲載し、交通事故防止の注意喚起を行った。また、高齢者による交通事故の減少を図るため、自ら運転免許証を返納した高齢者の方への支援を行う高齢者運転免許証自主返納支援事業等の説明を出前講座(2回)で行った。</li> <li>11月に第8部管内において、秋季防火訓練を実施、第5区の大城地区の住民を中心に参加していただいた。また、3月に第9部管内のけやき台地区において、春季防火訓練を実施、第14区の住民を中心に参加していただいた。</li> <li>2月に第1区管内の馬場・鎌浦・正応寺地区において、土砂災害避難訓練として、情報伝達訓練及び避難訓練、ドローンによる捜索、第2部消防団による避難行動要支援者や逃げ遅れた方の救出訓練を実施した。</li> <li>11月に毎年開催している自主防災組織リーダー研修会を開催し、60名以上の参加があった。</li> </ul> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>防犯カメラ、防犯灯については、合同点検を実施した結果、全行政区と調整を行い、設置が必要な箇所に設置した。令和4年度は、防犯灯を16基設置し、犯罪の抑止力を高めた。</li> <li>地元区長、地元関係者、関係機関と協議の上、カラー舗装の設置、転落防止柵の設置、区画線の引き直し、ラバーポールの設置、カーブミラーの修繕・設置、横断旗や飛び出し人形の設置等の交通安全施設の計画的な整備を行った。</li> </ul>

### 3. 評価(Check)

プロジェクト評価	
プロジェクトの成果・効果	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"><li>令和4年度犯罪(侵入盗・乗り物盗・自販機ねらい・車上ねらい等)件数は40件で、昨年度に比べ7件増加した。</li><li>ながらパトロールの登録者数は、令和5年3月31日現在で531人であった。</li><li>基山町民の令和4年中の人身交通事故発生状況は、1万人当り12.08件で県内で1番発生件数が低い結果であった。</li><li>令和4年度高齢者運転免許証自主返納者数は77人であった。</li><li>第2区自主防災会とけやき台合同自主防災会、第3区自主防災会は、自主的に継続して避難訓練を実施されるようになった。</li><li>けやき台合同自主防災会と第3区自主防災会は、自主的に講師を迎え、地域の実情に合わせた防災研修会を実施、避難行動要支援者の把握や危険箇所点検を実施されるなど、地域がつながりを持った防災・減災に効果があった。</li></ul> <p>②</p> <p>防犯カメラを設置した箇所では犯罪が発生した場合は、警察から情報提供の依頼があり、データを提供することで早期の事件解決に役立っている。</p>
プロジェクトの課題・問題点	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"><li>令和4年度については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため交通安全講習会等を開催することができなかった。</li><li>交通安全や防犯対策に関する情報について、関係課と連携し、特に1人暮らしの高齢者の方に対する周知を検討する必要がある。</li><li>町内の17の自主防災会全てにおいて、地域の実情に合わせた防災・減災活動に取り組む必要がある。</li></ul> <p>②</p> <p>犯罪が発生した際、警察からの情報提供の依頼が遅い場合があるので今以上に警察と連携を図る必要がある。</p>

### 4. 今後のプロジェクトの方向性(Action)

今後の取組内容	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"><li>今後も出前講座や交通安全教室、交通安全街頭キャンペーンの実施、広報等で交通安全に関する内容を掲載し、交通事故防止のため鳥栖警察署と連携を図り、スピード超過の車両対策等に努める。</li><li>基山町主催で自主防災会の機能強化を目的とした研修会を実施すると共に、自主防災会が自主的に佐賀県の地域防災力向上促進事業費補助金を活用した防災研修会や避難訓練などを実施するよう促す。</li><li>自主防災会に対し、まちづくり基金事業やコミュニティ助成制度を活用した防災備蓄品等の備蓄を斡旋する。</li></ul> <p>②</p> <p>防犯カメラ、防犯灯の設置は、防犯上危険な箇所に計画的に設置していく。</p>
---------	---

## 1. プロジェクトの概要(Plan)

プロジェクト	プロジェクト番号	プロジェクト名
		10
担当課(担当係)	まちづくり課(協働推進係、生活環境係)、企画政策課(総合計画推進係)、財政課(財産管理係)、定住促進課(都市計画係、地域公共交通係)	
総合戦略の6つの柱	基本目標	
	④安心と安全をベースにオール基山のまちづくり	
プロジェクトの概要	想定する事業	
	①『オール基山』推進事業(企画政策課) ②協働のまちづくり推進事業(まちづくり課) ③協働の地域環境整備事業(まちづくり課、財政課) ④ゼロカーボン推進事業(まちづくり課) ⑤コンパクトシティ推進事業(定住促進課) ⑥コミュニティバス利用促進事業(定住促進課)	
	施策の概要 ①住民と行政の役割と責務を整理しながら、基山町のまちづくりに関し、白紙から議論し、共に行動し、実践することで、人材を発掘・育成し、人材力を活かした地域課題の解決や地域活性化にオール基山で取り組みます。 ②基山町まちづくり基本条例で規定された町民主体のまちづくりの推進を目的に、町民によるまちづくり計画策定の支援やまちづくり基金事業の活用を推進することで、地域コミュニティの再生を目指します。 ③公園植栽や街路樹、その他地域内の公共用地内の植栽剪定や除草、清掃作業を町と町が支援する地域環境整備協力団体とが役割分担し、実施します。 ④2050年に温室効果ガス排出実質ゼロを目指す「2050年ゼロカーボンシティ宣言」に基づき、温室効果ガス排出量ゼロを推進する取組を推進します。 ⑤将来的にも町民の便利な日常生活が継続されることを目的に、「立地適正化計画」を策定し、地域公共交通と連携したコンパクトシティ化を推進します。 ⑥コミュニティバスを町民にとってより利用しやすいようにするため、運行ルートの見直し等を検討・実施し、地区の出前講座等で利用方法などの周知を図ります。	

## 2. プロジェクトの実績(Do)

令和4年度に実施した取組内容
①Instagramで、『DEEP KIYAMA 100』と題して、 <u>町内のモノやヒトの情報を100個発信した。</u> Instagramの内容が見れるように、基山町ホームページにも掲載し、基山町のシティプロモーションを推進した。 ②令和4年度は14の団体へまちづくり基金補助金を交付し、町民主体のまちづくりの推進を目的とした様々な活動に対して支援を行った。 ③法定外公共物や公共用地内の植栽剪定や除草、清掃作業等における新たなボランティア制度の確立について、内容の検討を行った。その他、 <u>新たに公園内の除草(草刈)作業を行う地域団体(2団体)と委託契約を締結することができた。</u> ④ <u>太陽光エネルギーと電気自動車を活用した基山町脱炭素型カーシェア事業(試乗体験)に取り組んだ。</u> ⑤ <u>基山町立地適正化計画の上位計画にあたる基山町都市計画マスタープランの見直しを行い、地域公共交通と連携したコンパクトシティ化を推進するために、交通体系の方針について明記した。</u> ⑥ <u>町民の要望を踏まえて運行ルートの見直しやダイヤの改正を行い、新たなバス停として「若基小学校前」、「瀧光徳寺」を設置するとともに2号車の路線において本桜線の便数を追加した。</u>



### 3. 評価 (Check)

プロジェクト評価	
プロジェクトの成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 基山町の隠れた魅力や情報を発信することができ、町内外の方から、好評を得た。</li> <li>② 継続団体の事業に加え、新たに2つの団体の活動にスタートアップ支援を行い、3つの団体に対し特別継続事業による支援を行った。</li> <li>③ 新たな制度の確立については課題も多く、現在のところ実施までには至っていない。</li> <li>④ 太陽光発電設備を備えたカーポートの発電による電気自動車への充電により再生可能エネルギーを活用し温室効果ガス排出ゼロとなっている。</li> <li>⑤ 基山町都市計画マスタープランの策定に際し住民説明会を行い、交通体系の方針に関する町の考え方を周知した。</li> <li>⑥ バスの運行ルートやバス停の新設、ダイヤの改正による利便性の向上とともに、企画乗車券や運転免許証自主返納者の運賃無料化等の取り組みとこれらを出前講座で啓発することにより利用促進を図ることができた。</li> </ul>
プロジェクトの課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 発信した情報の継続的な利用方法を検討する。</li> <li>② まちづくり基金事業補助金のさらなる周知を図り、支援団体の事業の底上げやまちづくり事業自販機の利用促進による基金の積み立て額を増加させることが必要。</li> <li>③ 新たなボランティア制度の確立に向けて、支援内容も含めた具体的な取組方法等を関係各課等とまとめていく必要がある。</li> <li>④ カーシェア事業の開始初年度のため、事業の推進に努める。</li> <li>⑤ 居住誘導区域外において開発行為を行う際に町へ届出が必要になるため、開発業者等に届出制度を周知する必要がある。</li> <li>⑥ コミュニティバスに関する町民のニーズと利用状況を踏まえて、さらに利便性の向上を図るとともに、利用促進のための各種施策を検討し、出前講座等を活用して啓発を図る必要がある。</li> </ul>

### 4. 今後のプロジェクトの方向性 (Action)

今後の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① インスタグラムで発信した情報を他の媒体でも活用し、長期的な情報発信に利用する。</li> <li>② 今後も支援団体の活動を自立させ、新しく事業を開始する団体を支援し自立を促していく。</li> <li>③ 支援内容やボランティア団体、役割分担等の課題を整理し、制度の確立を目指す。その後、道路及び水路の法面並びに小規模児童遊園等の草刈りや、道路側溝及び水路の土砂撤去、交通量の少ない里道等の軽微な補修等を行うボランティア団体を募集し、維持管理及び環境保全活動を促進する。</li> <li>④ 町民の方の利用者拡大に向けカーシェアのPRに努める。</li> <li>⑤ 立地適正化計画及び都市計画マスタープランを活用し、コンパクト・プラス・ネットワーク型のまちづくりを進めていく。</li> <li>⑥ コミュニティバスの利用状況を踏まえた運行内容の改正等により、更に利便性の向上を図るとともに、企画乗車券などの各種利用促進策を検討し、出前講座のほか各種広報媒体を活用して利用啓発を行う。また、将来に向けてコミュニティバスを補完する持続可能な新たなモビリティサービスを検討する。</li> </ul>
---------	--

## 1. プロジェクトの概要(Plan)

プロジェクト	プロジェクト番号	プロジェクト名
	11	自然と歴史・文化・スポーツ分野での人材活用プロジェクト
担当課(担当係)	教育学習課(ふるさと歴史のまち推進係)、まちづくり課(文化・スポーツ係)	
総合戦略の6つの柱	基本目標	
	⑤基山力を活かした人材活用と人材育成のまちづくり	
プロジェクトの概要	想定する事業	
	① 文化財・文化遺産再発見事業 (教育学習課) ② 「自然×歴史×文化」を活かしたまちづくり事業 (教育学習課) ③ 文化芸術活動人材活用事業 (まちづくり課) ④ スロージョギング®活用事業 (まちづくり課)	
	施策の概要	
① 出前講座や展示、マップなどを活用した基山町の文化財・文化遺産の情報発信と情報の収集・整理に努めます。 ② 『基山町歴史的風致維持向上計画』に基づくソフト事業を検討し実施すると共に、文化遺産ボランティアガイドなどの人材育成や基山町民俗芸能保存会を通じた町内外への周知、次世代への伝統行事等の継承を支援します。 ③ 文化協会加盟のサークルから講師となってもらい、町主催の教室を開催し、人材活用と後継者育成を図ります。 ④ 日本スロージョギング協会の人材や関係団体と協力し、健康・観光・スポーツを一本化した取り組みとして「スロージョギング®大会」や「スロージョギング®教室」を実施することで、健康増進を図ります。		

## 2. プロジェクトの実績(Do)

令和4年度に実施した取組内容
① 出前講座や展示、マップなどを活用した基山町の文化財・文化遺産の情報発信と情報の収集・整理に努めた。小中学生を対象とした「基肄城絵はがきコンクール」を実施した。 ② 『基山町歴史的風致維持向上計画』に基づき、電子紙芝居「まんが基肄城のヒミツ」作成など特別史跡基肄城跡の周知活用に係るソフト事業を行った。また、基山町文化遺産ボランティアガイドなどの人材育成や基山町民俗芸能保存会を通じ、次世代への伝統行事等の継承を支援した。 ③ 文化協会加盟の団体へ講師を依頼し、パソコン教室、タブレット教室、囲碁教室を実施した。 ④ 日本スロージョギング®協会と連携し、スロージョギング®教室を実施した。また、12月にはスロージョギング®大会を開催した。

## 3. 評価(Check)

プロジェクト評価	
プロジェクトの成果・効果	① 出前講座については、基肄かたろう会の協力を得て、若基小・基山小の児童を対象に「特別史跡基肄城跡」の歴史を中心に郷土の歴史等について講話し、ふるさとの歴史について伝えた。また、基肄城絵はがきコンクールでは、1,121通の応募があり、多くの児童生徒に基肄城跡についての関心を持っていただいた。 ② 祭礼は新型コロナ関係で中止となったが、その代わりとして、伝統芸能継承のための活動に対する補助金のメニューを試行的に増やしたところ、好評であった。 ③ 予定どおりすべての教室を開催することができ、人材活用と後継者育成を図った。 ④ スロージョギング®教室、スロージョギング®大会を開催し、健康増進を図った。
プロジェクトの課題・問題点	① 出前講座については、児童生徒に基肄城や基山の歴史により関心をもってもらえるよう、分かりやすい内容の提供やさらなる工夫が必要と思われる。 ② 応募作品のすべてを展示するため、特に、展示方法に工夫が必要であった。図書館郷土資料コーナーと佐賀県庁民ホール、基山美術館(町民体育館)の3か所で展示会を行った。 ③ 新規受講者の確保が課題となっている。 ④ 新規参加者の確保が課題となっている。

## 4. 今後のプロジェクトの方向性(Action)

今後の取組内容	① 今後ともボランティアガイドと密に連携し、出前講座や展示、マップなどを活用した基山町の文化財・文化遺産の情報発信と情報の収集・整理に努める。 ② 『基山町歴史的風致維持向上計画』に基づくソフト事業を実施すると共に、文化遺産ボランティアガイドなどの人材育成に努める。また、基山町民俗芸能保存会を通じた民俗芸能に係る町内外への周知、次世代への伝統行事等の継承を支援する。特に、伝統芸能の継承できる仕組みを地域とともに検討する。 ③ 令和5年度は上記の教室のほかに、生け花教室を実施。 ④ 引続き、スロージョギング®教室、スロージョギング®大会を実施。
---------	---

1. プロジェクトの概要(Plan)

プロジェクト	プロジェクト番号	プロジェクト名
	12	まちの未来を担う人材育成プロジェクト
担当課(担当係)	教育学習課(教育総務係)、まちづくり課(図書館係)、健康増進課(健康増進係)	
総合戦略の6つの柱	基本目標	
	⑤基山力を活かした人材活用と人材育成のまちづくり	
プロジェクトの概要	想定する事業	
	① 子どもの学力アップ推進事業 (教育学習課) ② 図書館アカデミック読書推進事業 (まちづくり課) ③ 食育推進事業 (教育学習課、健康増進課) ④ つながる教育推進事業 (教育学習課)	
	施策の概要 ① 未来の基山を担う人材へと成長することを目的に、小中学生への英語検定受験料の補助、英語ネイティブ授業や補充学習、地域の人材を活用した学習支援を行い、学習環境整備やICT教育等を推進します。 ② 読書の喜びと学ぶ楽しさを伝える地域の文化拠点として、読書環境の整備と読書活動の推進に努めます。図書館の資料や情報を活用したレファレンス業務や各種講演会の開催により、多世代の交流と学びを支援します。 ③ 食育を推進するため、小中学生や保護者を対象とした栄養学習会等や「学校給食週間」の実施、「早寝・早起き・朝ごはん」の推奨、その他、関係団体と協力し、地場産物を使用した学校給食や食育指導等に取り組みます。 ④ 子ども達の学校から社会へのスムーズな移行を目的に、仕事や職業に対する意識を高め、具体性のある進路設計ができるよう、職場体験等を実施します。	

2. プロジェクトの実績(Do)

令和4年度に実施した取組内容
① 英語教育の推進として、小中学生の英語検定受験料の補助(実績:104名)を継続して実施した。また、各小中学校にALTを配置し、英語ネイティブ授業を実施した。また、小学校では中学校英語教諭経験を持つ教諭を小学校英語専科として配置し、小学校の英語力向上に努めた。 ② 読書推進事業として、子どもSDGsお話し会や人形劇を開催し子どもたちの読書推進に努めた。また、夏休み前図書館事業として「青少年の非行の予防と対策、平和や命の大切さについて」の講演会を開催した。「竹あかりナイト」「クリーニングデイ佐賀」「大人のための映画会」等の事業を開催し、多世代の交流を進めた。ブックスタート事業やセカンドブックプレゼント事業もセレモニーとして実施し、絵本の読み聞かせや本・通いバッグを手渡した。令和4年度のレファレンス業務の件数は2,200件実施した。 ③ 新型コロナウイルス感染症の影響により各種料理教室は実施できなかったが、「学校給食週間」の取組として学校給食だよりを発行した。 ④ 職場体験など体験的な学習を効果的に活用し、地域社会等と連携しながら、学校の教育活動全体を通じてキャリア教育の推進を図ることができた。

3. 評価(Check)

プロジェクト評価	
プロジェクトの成果・効果	① 小中学生の英語検定補助金利用者は104名。ALTによる英語ネイティブ授業は、子どもにとって、楽しく魅力的なものであり、英語や国際交流に対する興味を高めるものである。 ② 図書館が行政や町内団体と連携することで、図書館への新たな来館者増が進み、図書の貸出冊数の増に繋がっている。 ブックスタート等の事業を継続的に実施することにより、子どもたちの読書習慣の醸成に繋がった。また、就職支援やビジネスメールマガジンなどの情報発信をすることにより、多くの方に情報を周知・利用していただいた。 ③ 子どもの頃から食について学ぶ機会を提供することにより、将来、健康で豊かな生活を送るための支援ができた。 ④ 職場体験については、コロナ禍であり、受け入れ事業所の制限が厳しい状況ではあったが、実施することができた。地域社会との連携ができ、事前、事後指導を通して、自身の進路設計につながる学習をさせることができた。
プロジェクトの課題・問題点	① 中学生になって、英語科の学習は生徒に好まれているが、学力調査等では県平均を下回っている。小学生のころから慣れ親しんだ英語を学力として定着させることが課題となる。 ② 情報発信や展示がマンネリ化しないよう情報を集め、目新しい情報発信となるよう新たな連携や「見せ方」などの検討が必要である。 ③ 新型コロナウイルス感染症への不安があるため、今までのような料理教室をすることは難しい。 ④ コロナ禍での制限により、生徒が希望する職種等が開設できないところがあったため、今後さらに改善し、意欲的に自身の進路設計に取り組める環境を整えたい。

#### 4. 今後のプロジェクトの方向性(Action)

<b>今後の取組内容</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>① 小学生の受検を促進するため、町広報紙やホームページ以外にも広報を行い、認知度を上げる。また、英語検定の受検を推進するだけでなく、中学生の放課後補充学習と連携し、合格率の向上を目指す。</li><li>② 引き続き、行政や町内団体との連携に努めるとともに、町民の求めに答えられるよう図書や情報を収集し整備する。収集整備の幅をデジタル情報まで広げ、「図書館だからできること」を推進していく。</li><li>③ 今後は料理教室の代わりに、各種団体へ出前講座の利用を通して、食について情報提供をしていく。</li><li>④ 町内の事業所とさらに連携を深め、職業人の講話、職場体験等、地域人材を生かした取り組みをさらに充実させる。</li></ul>
----------------	--

1. プロジェクトの概要(Plan)

プロジェクト	プロジェクト番号	プロジェクト名
		13
担当課(担当係)	福祉課(障がい福祉係・高齢福祉係)、健康増進課(健康増進係)、財政課(財産管理係)、建設課(整備・管理係)、住民課(くらしの安心・安全係)	
総合戦略の6つの柱	基本目標	
	⑥誰もが活躍できるユニバーサルなまちづくり	
プロジェクトの概要	想定する事業	
	①ユニバーサル生活推進事業(福祉課、財政課、建設課、住民課) ②一人暮らしの高齢者支援事業(福祉課) ③高齢者サポーター事業(福祉課) ④高齢者の生きがい元気づくり事業(福祉課) ⑤糖尿病重症化予防事業(健康増進課)	
	施策の概要 ①公共施設等のバリアフリー化の推進、歩道等の点検体制の整備、高齢者等への交通安全教育、サロン活動への参加と啓発、手話通訳者等のコミュニケーション支援、未来技術を活用した生活支援などソフトとハードの両面からの生活環境の充実を図ります。 ②町内の関係者と連携し、一人暮らしの高齢者の見守り体制を構築します。 ③認知症の正しい理解の啓発と、認知症高齢者のサポーターの養成、判断能力が不十分な高齢者や身寄りの少ない高齢者、認知症高齢者等の保護と支援に取り組みます。 ④高齢者等を対象に、健康ポイント制度等を拡充し、介護予防教室、出前講座、通いの場などの介護予防・健康増進事業への参加を促し、運動機能の維持・向上を図り、健康寿命の延伸に取り組みます。 ⑤特定健診の受診率向上に取り組み、糖尿病やその予備群の方々への保健指導など重症化防止に取り組みます。	

2. プロジェクトの実績(Do)

令和4年度に実施した取組内容
①公共施設等のバリアフリー化の推進の一環で、保健センターの多目的トイレにウォシュレットを設置した。また、歩道等の点検を行い、舗装の痛みや根上り等の段差を解消し、生活環境の充実を図った。ソフト事業として、高齢者等への交通安全教育については、広報等で定期的に交通安全に関する内容を掲載し、交通事故防止の注意喚起を行った。また、高齢者による交通事故の減少を図るため、自ら運転免許証を返納した高齢者の方への支援を行う高齢者運転免許証自主返納支援事業等の説明を出前講座(2回)で行った。コミュニケーション支援としては、毎月2回役場で手話通訳者の設置を行い、必要に応じて手話通訳者の派遣を行った。 ②民生委員や基山地区地域包括支援センターなどの町内の関係者と連携し、一人暮らしの高齢者の見守り体制を構築した。 ③認知症の正しい理解の啓発と、認知症高齢者のサポーターの養成、判断能力が不十分な高齢者や身寄りの少ない高齢者、認知症高齢者等の保護と支援に取り組んだ。 ④高齢者等を対象に、健康ポイント制度等を拡充し、介護予防教室、出前講座、通いの場などの介護予防・健康増進事業への参加を促し、運動機能の維持・向上を図り、健康寿命の延伸に取り組んだ。 ⑤令和4年度の国保の特定健診受診率は53.4%(速報値)、重症化予防の取り組みについては、対象者537名中343名(63.8%)の方へ保健指導を実施した。

3. 評価(Check)

プロジェクト評価	
プロジェクトの成果・効果	①公共施設等のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化の整備を進めることができた。また、歩道等の点検については高齢者率が高い地域の点検を行ったため、高齢者への生活環境の充実が図れた。ソフト事業について、令和4年度高齢者運転免許証自主返納者数は77人だった。手話通訳者の設置及び派遣では、聴覚障害者の方が安心して病院や諸手続き等を行うことができた。 ②地域ケア会議を1回実施し、地域の体制について情報共有及び確認を行った。民生委員・民生児童委員会において、一人暮らしの高齢者の情報交換を実施し、協力体制の構築を協議した(1回)。 ③認知症に対する正しい理解と啓発のため認知症サポーター養成講座を5回、各小学校でのキッズ認知症サポーター養成講座を2回、中学校でのジュニア認知症サポーター養成講座を1回実施した。また、認知症高齢者の訪問を随時行い、介護認定や介護サービスの支援を行った。 ④介護予防教室・出前講座を66回、介護予防サポーター養成講座を8回実施し、介護予防・健康増進事業への参加を促した。また、各区において70・75歳を対象に介護予防健診を実施し、自身の身体の状態を把握し、早期にフレイルや介護予防につながる動機づけとなった。 ⑤保健指導により、生活習慣の改善に繋がれば、健康寿命の延伸や医療費の適正化を図ることができる。
プロジェクトの課題・問題点	①歩道等の点検については今後、高齢化率が高い地域が増えていくため、点検個所の増加や修繕費等の増が問題となる。その他、交通安全講習会については令和3年度に引き続き新型コロナウイルス感染防止のため開催できなかった。手話通訳者の派遣等については、必要な方に啓発を行っていく。 ②見守りを必要としている高齢者の個人情報の取り扱いについて、同意を得るのに時間を要する。 ③認知症サポーター養成講座を受講した後の、地域での見守りに関して、どのような事ができるのか継続した情報提供が必要である。 ④通いの場は、13自治会で開設し、4自治会が未設置である。そのうち1自治会は次年度の開設が見込まれているが、残りの3自治会の開設に向け、引き続き役員の育成が必要である。介護予防サポーターのなり手が不足しているので情報の周知を図り、確保に努めていく必要がある。 ⑤保健指導の対象者が増加しており、指導方法や対象基準に対し見直し・工夫が必要である。

#### 4. 今後のプロジェクトの方向性(Action)

<b>今後の取組内容</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>① 今後も引き続き点検等を行い、生活環境の充実に努め、断続的にバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化の整備を図っていく。</li><li>② 支援が必要な高齢者を訪問し、情報共有の同意及び事業者との連携会議を継続し、体制構築の強化を図る。</li><li>③ 認知症サポーター受講者台帳の更新を行い、サポーターの活動を支援する情報提供を行っていく。どこシル伝言板（QRコードを用いた認知症高齢者保護対策）を活用した認知症声掛け訓練を実施し、認知症の方への支援体制の輪を拡充する。</li><li>④ 4自治会の通いの場の開設に向けた出前講座を実施し、通いの場の役員の育成に取り組む。介護予防健診後には身体の状態に合わせた社会資源や教室等を案内し、健康寿命の延伸・介護予防を図る。</li><li>⑤ 保健指導方法の見直し・工夫により、できる限り対象者全員への保健指導実施を目指す。</li></ul>
----------------	--

1. プロジェクトの概要(Plan)

プロジェクト	プロジェクト番号	プロジェクト名
		14
担当課(担当係)	企画政策課(総合計画推進係)、福祉課(社会福祉係、障がい福祉係)、まちづくり課(協働推進係)	
総合戦略の6つの柱	基本目標	
	⑥誰もが活躍できるユニバーサルなまちづくり	
プロジェクトの概要	想定する事業	
	① 多世代交流拠点活用事業 (福祉課) ② 高齢者の役割づくり事業 (企画政策課) ③ 障がい者(児)支援事業 (福祉課) ④ 多文化共生推進事業 (まちづくり課)	
	施策の概要	
	① 誰もが活躍できるまちづくりの拠点として、多世代交流センター憩の家や福祉交流館を活用し、世代間交流を推進します。多世代交流センター憩の家では、子どもと大人のつながりや地域とのコミュニティ連携ができるよう多世代食堂事業に取り組みます。 ② 経験豊かな高齢者のスキルを活かした子育て支援や就労支援などのまちづくり活動への参画を図ることで、地域力の向上とセカンドライフにおける地域貢献と生きがいづくりを進めます。 ③ 町民に対し、障がい者や障がい児の正しい知識と理解を深める啓発活動に取り組むと共に、障がい者や障がい児に対する虐待等の相談に対する巡回相談やイベント時相談など迅速な訪問相談に取り組みます。 ④ 誰もが活躍できる基山町を実現するため、基山町に暮らす外国籍住民にも分かりやすい日本語で行政情報の提供など関係機関と連携した多言語情報提供に努めると共に、生活者として地域でのコミュニケーションを目的とした「にほんごひろば」の開催、外国人コミュニティの形成支援に取り組みます。	

2. プロジェクトの実績(Do)

令和4年度に実施した取組内容
① 令和4年5月から多世代交流センター憩の家で、町内の高齢者や子育て世代等に月1回食事の提供を行う多世代食堂を実施している。多世代食堂では、子どもたちが食事を通して交流し、世代間の絆や地域のつながりを強めることや、フードドライブにより食料品を必要とされる方への提供等を行っている。 ② 基山町総合計画に掲げるプロジェクトとしてNPO法人化を目指していたSGKが、令和4年5月にNPO法人を設立した。また、令和4年4月にJRけやき台の管理業務を受託、令和5年3月には、1周年記念イベントとして歴史めぐりウォーキングを開催した。 ③ 12月に開催したふれあいフェスタにおいて、障害者マークの展示や相談コーナーを設置し啓発活動等を行った。また、鳥栖・三養地区総合相談支援センターキャッチへ業務の委託を行い、虐待等の検討が必要な課題については町を含めた関係各所と協議等を行い早期対応等を行った。 ④ 英語・ベトナム語・やさしい日本語に翻訳したゴミカレンダーを作成、外国籍住民にゴミ収集について情報提供を行った。2023草守基建(草スキー)世界大会内において日本語教室として交流イベントを開催し、参加選手と外国人参加者の交流を深める多文化共生の推進を図った。

3. 評価(Check)

プロジェクト評価	
プロジェクトの成果・効果	① 多世代食堂の参加者も多く、子どもから大人までの多世代交流の拠点となっている。 ② SGKにおいて、総合計画期間中(平成28年度から令和7年度まで)にNPO法人化する目標を達成。さらに駅管理業務を受託し、活動の場が広がっている。駅管理業務の受託により、駅利用者の安心・安全に繋がっている。 ③ 総合相談支援について、業務委託を行っていることで、本町の業務では対応できない多岐にわたる相談に対応ができた。 ④ ゴミカレンダーの多言語版の配布して、ゴミ収集のマナー等について啓発を行うことができた。また、交流イベントを開催することで、多文化共生について理解を促せた。
プロジェクトの課題・問題点	① 他のイベント等と連携し、周知を図っていく必要がある。 ② SGKにおいて、会員の高齢化やコロナ禍による参加見送りの影響から、会員や参加者の減少が見られる。 ③ 相談内容が多様化及び専門化してきており、それらに対応できる相談体制を整備する必要がある。 ④ 多様化する国籍の外国籍住民に対して、生活に関係することや災害時における必要な情報をできる限り早くわかりやすく届けることが必要であるため、対策を考えることが重要となる。

4. 今後のプロジェクトの方向性(Action)

今後の取組内容	① 今後も多世代の交流が図れるように、子どもから大人までを対象としたイベントを開催する。 ② NPO法人化したSGKが、今後も継続して活発な活動ができるよう連携し、活動を支援する。 ③ 鳥栖・三養地区総合相談支援センターキャッチへ業務委託を行っており、今後も連携強化を行い、困難事例の早期解決等を行っていく。 ④ 交流の場を提供し、住民と外国籍住民がお互いに多文化共生についての理解を深めるように促していく。また、やさしい日本語を活用し、必要な情報を発信していく。
---------	---